



地域で見守り合える関係づくりを目指した “支え合いマップ”づくり

相生市社協では、第3次地域福祉推進計画において「思いやり 支え合い 笑顔で暮らせる あいおい」を総合目標に掲げている。誰もが安心して暮らせるよう、住民の福祉に対する意識を高め、住民間で考え、助け合える関係づくりと専門職も関わるネットワークづくりを目指し、「支え合いマップづくり」と「見守り活動」に力を入れている。

日頃からのご近所付き合いを目指して

近年、困ったときにご近所でお互いが助け合える関係を持つことが難しくなっている。このため社協では、平成27年度より自治会域の社協支部ごとで福祉活動に関わっている福祉委員や民生委員等と、地域で気になっている人の情報の共有ができる「支え合いマップ」づくりの支援を始めた。

まずは、支え合いマップを作成する意義や作成方法を学べるよう、10月に全支部を集めた研修会を開催。その後支部を順次回って、地域での支え合いや見守り活動の重要性を伝えるとともに、各地域の実情をヒアリングしていった。

丁寧な地域への働きかけを通して、「体調が悪くなってから、地域の集まりに顔を見せなくなった人がいる」など、社協が住民の抱える課題や地域の実情を把握できただけでなく、住民自らが支え合いの難しさと大切さに気付く機会にもなった。



マップのつくり方のポイントを学ぶ研修

マップづくりから一歩進んだ見守り活動へ

高齢化率50%を超えた栄町自治会では、地区内で高齢者が体調不良により緊急搬送される事例が近年立て続けに発生した。これまでは早期な対応で事なきを得てきたが、深刻な事態になってから異変に気付くのでは遅いと、住民の中でも危機感が高まった。そこで、社協では、マップづくりの支援を通じて地域で気になっている人の情報を共有し、見守り活動に取り組みめるようアドバイスを続けてきた。

その結果、12月には社協が作成したカレンダーを福祉委員らが地域の気になる方へ配布する活動をスタート。ただ配るだけでなく、訪問した際に困っていることや何かできることはないかなどを聴き取り、その内容を基に自分たちの地域でできる支え合いの在り方を考え始めた。

社協では、栄町自治会のようにそれぞれの地域の実情に合わせた見守り活動に取り組みめるよう、これからも学習の機会づくりや住民同士の話し合いの場づくりに力を入れていく。



実際にマップを作成し、人のつながりを“見える化”

取材を終えて

支え合いマップづくりの場が、地域の中でつながりの弱い人が誰かを住民同士で共有する機会になっていました。住民が見守りの大切さに気付き自ら行動を起こせるよう、地域の状況に合わせた丁寧なサポートが欠かせないと感じました。

会長から 相生市社会福祉協議会 会長 谷 勝雄

全ての市町に設置されている社会福祉協議会は、住民一人一人の善意と誠意で結ばれた福祉パワーを源泉に、地域の課題解決に取り組んできました。ところが、変容著しい今日の地域社会では、従来の福祉課題だけでなく、さまざまな生活課題を含めた対応に迫られています。「福祉」とは、快適で満たされた生活状態を指すといわれますが、そのような状態がさまざまな課題により阻害された際に必要な支援を行うため、地域社会と社協が担う役割はますます大きいものとなっています。頑張ろう、社協！

